

復興予算の「見える化」が

流用問題発覚につながらる

の災害復興予算は、被災した高速道路の復旧なども、被災地以外での道路の補修などと同様、

復興とは関係のない事業に予算が使われ、厳しい批判にさらされている復興予算流用問題。この問題が発覚す

る一因となった、復興予算の「区分経理」が、関係者から高く評価されている。

予算は、具体的な使途が分かるよう、復旧復興関連の事業だけは区分して管理されている。一方で、これまで

国土交通省の予算に組み込まれ、後の検証ができない仕組みになっていた。

東日本大震災の復興

る。このため、例えば、

阪神・淡路大震災の復興予算では、何にどれだけの資金が使われたのか、国も把握してお



竹谷とし子さん

公明 スポーツ

らず、制度改善を求め

公明・竹谷さんらが推進

る指摘があった。

復興予算の使途について、公明党の竹谷とし子参院議員は、一貫して「見える化」の推進を主張。東日本大震災復興基本法では、公明党の主張により、資金の流れについて「透明化を図る」と明文化され、これを受けた復興予算の編成についても、2011年10月27日の参院財政金融委員会、竹谷さんが区分経理の必要性を訴えていた。